

ソロン語

風間 伸次郎

ソロン語は中国内蒙古自治区のホロンバイル地方に主に分布するツングース語族の言語で、その話者であるソロン人たちの主たる生業は遊牧である。中国では鄂温克 (èwēnkè) 語 (エウエンク語) の一方言とされている。ツングース諸語の中では、言語・文化の両面でモンゴル語の影響を強く受けた言語のひとつである。コンサルタントは 1957 年生まれ的女性で、2016 年 3 月にハイラル (海拉尔) にて調査を行った。媒介言語には漢語を使用した。使用した漢語の文は [] 内に示した。漢語の調査例文は 1988 年黒龍江省生まれの漢語母語話者に日本語から翻訳していただいた。ここに記して御礼申し上げたい。査読の先生からも貴重なコメントをいただいております。本稿がきちんとしたものに推敲できたことを深く感謝したい。なお斜字体は漢語からの借用語であることを示し、その表記はピンインによるものとする。

[1] 「えっ、シャオホン (もしくは、紅ちゃん (以下も同様)) が来たの?」「いや、シャオホンじゃなくてシャオリーが来たんだ。」【対比焦点 (主語)】 (例えば、昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話)

[A: 「诶? 小红来了?」 B: 「不是小红, 是小丽来了。」]

“ai, xiaohong əmə-səə=gi?”
EXCLA PN come-PTCP.PERF=Q

“xiaohong əntu, xiaoli əmə-səə.”
PN different PN come-PTCP.PERF

焦点の部分はプロミネンスを伴って発音される。例えばこの例[1]では、*xiaoli* の発音がプロミネンスを伴って発音された。このことは以下の文でも基本的に同様である。

[2] 「誰が来た (の)?」「シャオホンが来たよ。」【WH 焦点 (主語)・WH 応答焦点 (主語)】

[A: 「谁来了?」 B: 「小红来了。」]

“awuu əmə-səə?” “xiaohong əmə-səə.”
who come-PTCP.PERF PN come-PTCP.PERF

[3] 「シャオホンの方が大きいんじゃないの?」「いや、シャオホンじゃなくて、シャオリの方が大きいんだよ。」【YesNo 疑問・形容詞述語応答焦点】(シャオホンとシャオリの背について話している状況で)

[A: 「不是小红高一些吗?」 B: 「不是, 是小丽高一些。」]

“*xiaohong* *gudda-slaa* *əntu=gi?*” “*əntu*, *xiaoli* *gudda-slaa.*”
 pn tall-COMPR different=Q different PN tall-COMPR

[4] [電話で]「どうした(の)?」「うん、今、お客さんが来たんだ。」【文焦点(自動詞文)】

[(打电话) A: 「怎么了?」 B: 「嗯, 家里来了客人。」]

“*ittoo-soo?*” “*juu-ddu* *aiłm* *əmə-səə.*”
 what.happen-PTCP.PERF home-DAT visitor come-PTCP.PERF

[5] 「あの子供がシャオホンを叩いたんだって!」「いや、シャオホンじゃなくて、シャオリを叩いたんだよ。」【对比焦点(目的語)】

[A: 「听说那个孩子打了小红? /听说那个孩子把小红打了?」 B: 「打的不是小红, 是小丽。」]

“*dooldi-d-du*, *tajjaa* *uril*,
 hear-PTCP.IMPF-DAT that child

xiaohong(-bə) { *mandaa-saa=gi?* / *mandaa-saa* *gun-ən=gi?* }”
 PN-ACC hit-PTCP.PERF=Q hit-PTCP.PERF say-PTCP.IMPF=Q

xiaohong-bə *ə-səə* *mandaa-saa*, *xiaoli-wə* *mandaa-saa.*
 PN-ACC NEG-PTCP.PERF hit-PTCP.PERF PN-ACC hit-PTCP.PERF

本稿のテーマには直接関連しないが、例冒頭の *dooldi-d-du* *hear-PTCP.IMPF-DAT* の部分は、漢語の表現からの直訳によって生じたものと思われる。なお () 内の要素 (ここでは *-bə*) は任意の要素である。実際の録音時には、言い直した際に発話された。{ / } に示した表現も、やはり二様に発話されたものである。

[6] 「赤い袋と青い袋があるけど、どっちを買う (の) ?」「(私は) 青い袋を買うよ。」【対比焦点 (目的語, 特に「どっち」という対比的な疑問語の場合)】

[A : 「有红色的和蓝色的袋子, 你买哪个?」 B : 「我买蓝色的袋子。」]

“olarin oočči xux uŋgu-si tukku bi-sin,
red and blue color-PROP bag be-PTCP.IMPF

sii ijjəə-wə-n ga-da-ndɪ?”
you which-ACC-3SG take-IND.PRS-2SG

“bii xux uŋgu-si tukku-wə-n ga-da-m=ee.”
I blue color-PROP bag-ACC-3SG take-IND.PRS-1SG=EMP

[7] 「シャオホンはどうした?」「シャオホンは朝からどっかへでかけたよ。」【述語焦点 (例えば, 朝少し遅く起きて来たシャオホンの父親が, 姿の見えないシャオホンについて母親に尋ねている場面で)】

[A : 「小红呢?」 B : 「小红早上就出门了。」]

“xiaohong iləə nin-čəə?”
PN where go-PTCP.PERF

“xiaohong əddə-lii juu-či ul-čəə.”
PN morning-PROL go.out-SEQ leave-PTCP.PERF

漢語の「小红呢?」のように, 主題だけで文とすることは難しいのか, *iləə nin-čəə* 「どこへ行った」のような述語が補われている. 使用した漢語の調査例文に「どっかへ」の語句もなかったので, A : 「シャオホンはどこに行った?」 B : 「シャオホンは朝から出かけて行ったよ」のような文が得られた.

[8] 「(あの子供は) 誰を叩いたの?」「(あの子供は) 自分の弟を叩いたんだ。」

【WH焦点 (目的語)・WH応答焦点 (目的語)】

[A : 「那个孩子打谁了?」 B : 「那个孩子打了他自己的弟弟。」]

“tan uril awu-wa mandaa-saa?”
that child who-ACC hit-PTCP.PERF

“tan uril məən-ii nəxum-bi mandaa-saa.”
that child oneself-GEN younger.brother-REF.SG hit-PTCP.PERF

[9] [電話で]「どうした(の)?」「うん, シャオホンが(自分の)弟を叩いたんだ。」
 【文焦点(他動詞文)】(例えば, 電話の向こうで子供の泣き声起きたのを聞いての発話
 [(打电话) A:「怎么了?」 B:「小红打她弟弟了。】

“ittoo-soo?” “xiaohong naxum-bi mandaa-saa.”
 what.happen-PTCP.PERF PN younger.brother-REF.SG hit-PTCP.PERF

[10] 「あのケーキ, どうした?」「ああ, (あれは) シャオホンが食べちゃったよ。」

【目的語主題化, 主題(目的語)の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

[A:「那块蛋糕呢?」 B:「啊, 那块蛋糕让小红吃了。】

“tan əwəən ittoo-soo?”
 that cake what.happen-PTCP.PERF

“aa, tajjaa əwəəm-bə xiaohong-də ji-kkəən-č-u.”
 EXCLA that cake-ACC PN-DAT eat-CAUS-PTCP.PERF-1SG

ここでも漢語の「那块蛋糕呢?」に対して, ittoo-soo「どうした」という述語が補われているのが観察される. 主題となった əwəən「ケーキ」は応答文では文頭に移動されている. 「あの」に当たる語には tan と tajjaa の両方が使われるが, 話者によれば両者に違いはないという. 問いの文の tan は「あの」の意で用いられているが, 対格接辞は用いられなかった.

なお, 「シャオホンが食べちゃったよ」の応答文に当たる文が, 「シャオホンに食べさせたよ」のような使役文となっているが, これは媒介言語の漢語の表現からの影響によるものと考えられる.

[11] 「私が昨日お店から買って来たのはこの本だ。」【分裂文】

[我昨天从店里买回来的是这本书。]

(a) bii tiinugu bitgii-nii bəgə-txi unii-m əmuu-s-u
 I yesterday book-GEN place-ABL trade-SIM bring-PTCP.PERF-1SG

əjjəə dəbtər.
 this book

(b) tiinugu minii bitgii-nii bəgə-txi unii-m əmuu-səə-nin
 yesterday my book-GEN place-ABL trade-SIM bring-PTCP.PERF-3SG

əjjəə dəbtər.
this book

(a) が先に発話された文で、少ししてから次に (b) の文が発話された。(a) は単なる動詞述語文であるが、焦点である目的語が文末、それも述語の後に現れている。他方、(b) は形動詞の名詞用法を用いた分裂文(名詞述語文)である。tiinugu minii bitgii-nii bogu-txu unii-m əmuu-səə-nin「昨日私がお店から買って来たの」の部分は、1人称の人物が意味上の主語であるが、主語は属格形であり、興味深いことに形動詞につく人称は3人称の形になっている。この3人称の人称接辞は、モンゴル語における3人称をあらわすマーカーの *n'* 同様、主題のマーカーとして機能している可能性が考えられる。

[12] 「あの人は先生だ。この学校でもう3年働いている。」【措定文 主題(名詞述語文の主語)の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

[那个人是老师。在这所学校已经工作了三年了。]

tajjaa bəjə=si baksɪ.
that person=TOP teacher

əjjəə sɔŋʊʊl-du baksɪ-laa-čči ilan anee oo-soo.
this school-DAT teacher-VBLZ-SEQ three year become-PTCP.PERF

主題標示要素とグロスをつけた =sɪ / =si は漢語の「是」shǐ⁴ と音形が似ているが、地理的には遠いがソロン語と同じく I 群の言語(池上(1989)などを参照されたい)であるエウェン語などに類似の音形・機能の =si, etc. が認められるので、漢語からの借用と決めつけることはできない。

漢語をなぞっているためかもしれないが、2番目の文で主題である主語は明示的に表現されていない。この言語では明示的に表現しなくともよいことが確認できる。

本特集のテーマとは直接関係ないが、2番目の文で baksɪ-laa-「先生をする」のような出名動詞が用いられていることが興味深い。媒介言語である漢語の文の構成とも異なっているので、漢語の影響によるものでもない。この言語における名詞からの動詞化接辞 -laa の生産力を示している現象とみることができるだろう。

[13] 「彼のお父さんは、あの人だ。」【倒置指定文】

[他的爸爸是那个人。]

tajjaa-nɪ abaa-nɪ { tajjaa / tɔri } bəjə.
that-GEN father-3SG that / that person

この言語は肯定現在であれば、特にコピュラを必要としない。

[14] 「あの人が彼のお父さんだ。」【指定文】

[那个人是其他的爸爸。]

tari	bəjə=sɪ	tajjaa-nɪ	abaa-nm.
that	person=TOP	that-GEN	father-3SG

[15] 「あさってってというのはね、あしたの次の日のことだよ。」【定義文】

[所谓的后天就是明天的明天。]

tɪmɪnčɪ	bi-kki	tɪmaas m-ɪ	tɪmaas m.
the.day.after.tomorrow	be-COND	tomorrow-GEN	tomorrow

主題を示す要素に **bi-kki: be-COND** が現れているが、一般に他のツングース諸語にはこのような要素が見られないので、これはモンゴル語からの影響によって生じたものと考えたい。モンゴル語では **bol-bol: become-COND** に由来する **bol** という小詞が用いられる。このような要素に関しては、風間 (2003: 285) も参照されたい。このような条件形式に由来する主題提示の形式が、定義文によく用いられるものであるのか、はなお不明である。今後さらに研究を進める必要があると考える。

[16] [何人かが入った喫茶店で注文を聞かれて]「私はコーヒーだ。」【ウナギ文】

[（在咖啡厅，几个人被问到需要点些什么）我要咖啡。]

“bii	kafei-wa-n	gada-m=ee.”
I	coffee-ACC-3SG	take-IND.PRS.1SG=EMP

“*bii	kafei.”
I	coffee

目的語である **kafei-wa-n** が 3 人称の人称接辞をとっていることが注目される。その理由は不明であるが、ここでは「(店のメニューの) コーヒー (-その)」という解釈を提案しておく。コンサルタントによればウナギ文は成立しないという。

[17] [注文した数人分のお茶が運ばれて来て「どなたがコーヒーですか？」との問いに]
「コーヒーは私だ。」【逆行ウナギ文】

[(点好的饮料被端来, 针对 咖啡是哪位的?/哪位点的是咖啡? 这一提问) 咖啡是我的。]

“*kafei-nin* *minii.*”
coffee-3SG my

“**kafei(-nin)* *bii.*”
coffee(-3SG) I

ここでも逆行ウナギ文は成立しない。

[11] でみたように、3人称の人称接辞 *-nin* / *-nin* は主題標示要素として機能している可能性がある。この文では属格の人称代名詞がいわば物主代名詞のように機能している点も注目されるが、単に主要部名詞が省略されているという解釈もできるかもしれない。そのように解釈すると、この例はこのような場合にも主要部名詞が省略できるということを示す例ということになる。

[18] 「その新しくて厚い本は（値段が）高い。」【形容詞述語文 修飾・並列・述語】

[那本又新又厚的书很贵。]

(a) *tari* *dəbtər* *naan* *ikkixin* *naan* *dɪram,*
 that book also new also thick

əjjə *dəbtər,* *unə-si=ə.*
this book price-PROP=EMP

(b) *tari* *ikkixin=murtəən* *dɪram* *dəbtər* *unə-si=ə.*
 that new=and thick book price-PROP=EMP

先に発話したのが (a) の文で、少ししてから次に (b) の文が提示された。=*murtəən* は管見の限り先行研究に記述がない。試しにいろいろな形容詞に変えて訊き直してみたが、=*murtəən* はどの形容詞にも同じ形で接続可能なようであった。音声的には前の語に従属しているかのような発音で続けて発話されていた。したがってここでは付属語と判断することにする。母音調和による異形態も観察されなかった。ただこの要素に関しては今後さらに研究を必要とする。

[19] [砂糖の入れ物を開けて]「あっ、砂糖が無くなっているよ!」【意外性 (mirativity)】
 [(打开装砂糖的盒子) 啊, 砂糖已经用完了!]

a,	shatang-ba	xokko	xərgələə-m	man-čaa.
EXCLA	sugar-ACC	all	use-SIM	finish-PTCP.PERF

特に意外性を示す文に特徴的な要素は現れなかった.

[20] 「午後、誰かに会うはずだったなあ. 誰だったっけ. あっ、そうだ! シャオホンだったな.」【思い出し】

[我下午应该是要和谁见面的. 是谁来着? 啊, 对了, 是小红.]

“bii	inən	dolm-tixi-n	amasixi,	awuu-ji	baxa-ldii-mi?
I	day	middle-ABL-3SG	after	who-INS	meet-RECIP-IND.PRS.1SG
awuu	bi-səə	bikkəə?	a,	juxi-saa,	
who	be-PTCP.PERF	PST	EXCLA	correspond-PTCP.PERF	
xiaohong-ji	baxa-ldii-r	bi-s-u	sitə.”		
PN-INS	meet-RECIP-PTCP.IMPF	be-PTCP.IMPF-1SG	EMP		

単に PST 「過去」とグロスで示した要素 *bikkəə* の機能に関しては、まだ十分明らかではない。もっぱら文末に現れ、その前の位置には形動詞、特に完了形動詞、もしくは[名詞-恒常的所有]をとって現れるようである。機能的には、(ずっと)以前の話など、現在と切り離された過去を示す際によく用いられているようだ。おそらく *bi:be* に接辞 *-kkəə* のついたものと分析されるべきだが、他の動詞に *-kkəə* のついた例がほとんど見出されないため、現時点では分析が難しい。なおこの要素に関して、査読者の方から貴重な情報をいただいた。忘れないためにも、また読者のためにもここに記しておく。モンゴル語ではこのような「自問」(～だっけ?)の問いの場合に、条件小詞 *bol* と同じ形式の *bol* が文末で用いられるという(査読者の方はこれを一種の「言いさし」と考えているという)。ソロン語も同様に条件形 *bi-kki* に似た形式が現れているので、査読者からの御教示にあったように、条件形 *bi-kki* に何らかの要素が付加されてできた形式かもしれない。

*xiaohong-ji baxa-ldii-r bi-s-u sitə.*の文では、【思い出し】は未完了形動詞+ *bi:be* の完了形動詞によって表現されている。これは、この言語でも日本語同様、【思い出し】が完了/過去などの形式によって表現することを示している点で非常に興味深い。

略号・記号

1, 2, 3: 1 st person, 2 nd person, 3 rd person	PN: proper noun 固有名詞
ABL: ablative 奪格	PROL: prolative 沿格
ACC: accusative 対格	PROP: proprietary 恒常的所有
CAUS: causative 使役	PRS: present 現在
COMPR: comparative 比較級	PST: past 過去
COND: conditional 条件	PTCP: participle 形動詞
DAT: dative 与格	Q: question particle 疑問小辞
EMP: emphasis 強調	RECIP: reciprocal 相互態
EXCLA: exclamation 感嘆詞	REF: reflexive 再帰
GEN: genitive 属格	SG: singular 単数
IMPF: imperfect 未完了	SEQ: sequential 先行 (副動詞)
IND: indicative mood 直説法	SIM: simultaneous 同時 (副動詞)
INS: instrumental 道具格	TOP: topic marker 主題標示
NEG: negative verb 否定動詞	VBLZ: verbalizer 動詞化
PERF: perfect 完了	

参考文献

- 池上二良 . 1989. 「ツングース諸語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編) 『言語学大辞典 世界言語編』 第 1 卷. 1058-1083. 東京: 三省堂.
- 風間伸次郎. 2003. 「アルタイ諸言語の 3 グループ (チュルク・モンゴル・ツングース) 及び朝鮮語. 日本語の文法は本当に似ているのか—対照文法の試み」 アレキサンダー・ボビン・長田俊樹 (共編). 『日本語系統論の現在』 日文研叢書 31: 249-340. 京都: 国際日本文化研究センター.

